

すべての中国語学習者におすすめしたい。



進んで提灯持ちをしたくなる辞書。

中国文学者・作家
駒田信二

辞書を「読む」ことがたのしみの一つである私にとって、小学館の『日中辞典』は、進んで提灯持ちをしたくなる辞書である。

収録語数が類書にくらべて圧倒的に多いこともうれしいこと

とにちがいないが、それよりも私には、従来の辞典から見ると破天荒とでもいえそうなことをこの辞書がやっていることがうれしい。それは「囲み記事」というかたちで「解説」を随所にさしはさんでいることである。たとえば「あいさつ」という二ページにわたる「囲み記事」があって、さまざまな場合の中国の挨拶語が十三項目にわたって解説されていたり、「あだ名」というおもしろい「囲み記事」があったりすることである。

また「世界の主要な人名」「世界の主要な地名」などの「付録」は、類書の人名・地名よりも遙かに多く、更には文学作品名や音楽作品名の中国表記もふくまれていて、これはたのしいというよりも、役に立つという意味でうれしい。



中国語がますます必要になる
国際化時代の座右の書。

東京外国語大学教授
国際関係論・現代中国学
中嶋嶺雄

日本はいよいよ本格的な国際化時代を迎えようとしている。英語は、国際共通語として日常的にも欠かせないものになっているが、英語以外に少なくとももうひとつは外国語を身につけておくべきだと、私はいつも若者たちに言っている。国際接触の第一線に立っているビジネスマンや子育てを終って豊かな成熟時間をもつ余裕の出はじめている主婦の方々にも、そのように勧めている。

その場合にアジアの言葉を選ぶ方が、世界を見る視野が広

がってよいのではないかとアドバイスしているけれど、そうするとやはり中国語は欠かせない存在だ。全世界でもっとも多くの人びとによって話されている言葉であるばかりか、日本人としては自分たちの文化のルーツでもあるからである。

そのようなときに、一番大切なことは、「工具」選び、つまり良い辞書を選ぶことなのだが、辞書の中でも日本語を外国語で引く辞書の良し悪しこそ、外国語が好きになれるか、うまくになれるかの別れ道である。

このたびの小学館『日中辞典』は、たんなる辞典でなくて、中国語や日中比較文化についての百科事典のような要素もそなえている。従って、中国語を本格的に学ぼうという人びとだけでの書ではなく、「こんな言葉を中国語ではなんというのだろう」と思ったときに引いてみると、そこに日中両文化の異差や共通性も発見できてとても楽しいといった、まさにこれからの国際化時代の全家庭向けの一冊なのである。



まったく新しい
『日中辞典』の出現。

NHKテレビ中国語講座講師
明治学院大学教授
榎本英雄

中国語を外国語として学ぶ——この当たり前のことが、日本人学習者はなかなかできません。それは、日中両国語が共に漢字を使って表記される（とは言っても字形は大いに違います）からです。例えば、中国語の「汽车(車)」は「自動車」のことであり、「汽車」ではありません。また、「汤(湯)」は「スープ」のことであり「お湯」ではありません。このねじれで失敗

する話はよく聞きます。「电(電)车」ということばも、日本語の「電車」をイメージしたのでは困るわけです。こうしたことは、日本人ならついつい一度は犯す誤りなのです。

このたび、発売される小学館の『日中辞典』は、訳語のすべてにピンイン(ローマ字)表記がなされているため、多くの日中辞典と比べて大変便利です。中国語の的確な訳が、豊富な用例とともにつけられています。その上うれしいのは、「電車」や「文明」といった日中両国で同じ漢字表記をすることには、日本語から安易にイメージするのを避けるため、例文とともに詳しい注記がつけられているのも大変助かります。日本人学習者に本当に役立つよう編集されたまったく新しい『日中辞典』の出現——こう断言してもいいと思います。

日中共同編集
3月上旬刊行

日中文化の新しい架け橋となる
現代中国語の一大集成!

最新・最大の8万3千語と用例12万。的確・詳細な解説で
中国語の生きた表現を伝える初の本格的日中辞典。

RI-ZHONG
CIDIAN

日中辞典

北京・对外経済貿易大学
北京・商務印書館
小 学 館

共同編集

小学館